

平成 20 年 8 月 7 日

八尾市長 田中誠太 様

八尾市下水道事業評価委員

委員 江藤剛治

委員 日下正基

委員 辻田幸男

委員 美濃原弥恵

委員 藤井 順

平成 20 年度八尾市下水道事業評価について（意見具申）

八尾市下水道事業評価委員に対し、検討依頼のありました、八尾市公共下水道事業の再評価については、下記のとおり意見を取りまとめましたので具申します。

なお、今後の事業推進にあたっては、別紙、付帯意見についても十分配慮し、早期の事業目的の達成や効果の向上に努めるよう申し添えます。

記

下水道は、浸水の解消、生活環境の改善、公共水域の水質保全を図るためのライフラインとして必要不可欠な都市基盤施設である。

八尾市の下水道は、地形的な特性から、浸水対策としての雨水排除と環境対策としての汚水処理を同時に進めることができる合流式を主に採用し、事業を実施していることから、多大な費用と整備期間を要しているが、その投資効果は、十分に現れている。

また、下水道の普及によって河川、水路等の水質が改善されることは、環境面からも都市としての価値が高まる。

下水道整備人口普及率は 80% に近づいているが、依然として整備年次が未定である市街化区域及び隣接する市街化調整区域の住民からの早期下水道整備の要望は強い。

今後、下水道事業を進めるにあたっては、社会情勢の変化に十分配慮しながら、効率的な事業計画を策定し、健全な下水道事業経営のもと、事業推進に努められたい。

以上

平成20年度八尾市下水道事業評価委員付帯意見

- ・ 下水道は、都市のライフラインとして必要不可欠な都市基盤施設であるが、下水道の接続率を見た場合、接続していない事例もあることから、市民に対して、事業の必要性、目的及び効果を、より積極的に情報発信していただきたい。
- ・ 環境面では、下水道整備が進んだことにより、水路等の水質改善は確実に進んできているが、それに伴い水辺利用のニーズも高まっているので、さらなる水質の改善に努めていただきたい。
- ・ 環境面では、うるおいのある快適なまちづくりを図っていくうえで、水辺環境の保全・改善・創造は重要であり、水の循環という大きな体系の中で、下水道がその役割を担うものとして位置づけていただきたい。
- ・ 環境面では、「循環のみち」（循環型社会）を実現するために、下水道処理水を河川や水路への浄化・維持用水、防火用水、トイレの雑用水、植木への散水利用など、まちの魅力づくりに活用していただきたい。
- ・ 農業面では、下水道が普及することにより、水路等の水質が改善され、農業用水の利用価値も高まる。市内には、市街化調整区域はもちろん市街化区域の生産緑地等まだまだ農地も多く、農業用水の水質面からも下水道の早期整備をしていただきたい。
- ・ 本市における生活排水処理については、地域特性や設置担保の確実性、経済性、放流水質の実績などから、合併浄化槽と比較して、公共下水道が有利である。したがって八尾市生活排水処理基本計画のとおり、下水道により早期整備を図っていただきたい。
- ・ 市街化調整区域の下水道整備については、特に外環状線以東の市街化調整区域は、すでに市街地が形成され、地形的にも市街化区域と連担していることから、市街化区域と一体的に進めていくことが効率的であり、市街化区域の事業進捗を見ながら投資効果を考慮し、路線を十分に吟味し、計画的に進めていただきたい。
- ・ 市街化調整区域の下水道整備については、都市計画税の課題に見られる費用負担の問題があるので公平性を図っていただきたい。
- ・ 市街化調整区域の下水道整備については、人口の流れが都市の中心部に向かっているという指摘もあり、このような人々のライフスタイルの変化にも注意して、慎重に進めていただきたい。

- 下水道事業の費用対効果分析については、今後の課題として、治水という大きな面からも河川部局等と連携し、総合的に評価していくことも考えていただきたい。
- 下水道事業の費用対効果分析手法については、歴史も浅く、評価手法として完全に確立されたものでないと思われる。今後、評価手法についても検討していただきたい。
- 下水道の経営面では、市全体の財政、企業・家計、並びに環境等に対する影響を踏まえつつ、今後とも、経営健全化に向けた課題に、引続き積極的に取り組まれるとともに、そのPRに努めていただきたい。